

# JWF ファンド 2022 完了プロジェクト概要

## ムワンザのスラム街にある5つの村の学校に手洗い場を設置(タンザニア)

- (1) 実施団体: TANZANIA YOUNG ECO PROTECTION (#021)
- (2) 実施地: MISUNGI DISTRICT, MWANA-TANZANIA
- (3) 費用: 2,100ドル (JWFファンド1,500ドル、自治体200ドル、団体150ドル、受益者250ドル)
- (4) 受益者数: 2,500人 (男性50人、女性50人、子ども2,400人)
- (5) 実施地の水問題:

対象地域のほとんどの学校には十分な給水設備が整備されておらず、学校によっては給水設備すらないところもあった。また、この地区は人口が多く、水はけが悪い土地であるため、衛生状態が劣悪だった。このような不十分な給水と衛生環境の結果、病気が発生していた。



実施前: 学校用の水汲み



実施後: 手洗い施設を利用する生徒たち

## (6) プロジェクトの主な活動

- 村の5つの小学校に手洗い場を設置する。
- 実施団体のTAYEPが生徒たちに石けんを使った手洗いの訓練を行う。
- PTA (Parents-Teachers-Association: 父母と教師の会) が手洗い施設全体の機能を管理する。

## (7) 持続可能な活動: ミスンギ地区のPTAは、引き続き施設と構造物の維持管理と監視を行う。

# JWF ファンド 2022 フォローアップ結果

## ムワンザのスラム街にある5つの村の学校に手洗い場を設置 (タンザニア)

### 【現状】

- 2024年7月29日、TAYEPはプロジェクト現場をフォローアップ訪問し、配布された5つの足踏み式手洗い施設はすべて破損もなく、良好に機能していることを確認した。
- 受益者はTAYEPが訓練したように施設を適切に使用している。生徒たちは、施設をめぐる紛争や葛藤などの問題もなく、水を使って石鹼で手を洗っている。その一方で、手洗いのための液体石鹼を使い切ることがあったと、学校の子供たちは報告している。現在では、教師と生徒が液体石鹼を製造する時間があり、保護者会 (PTA) は液体石鹼と除菌剤を製造するための原材料を購入するための小額の寄付を支援している。
- 保護者・教師・協会 (PTA) または委員会は、手洗い設備の全体的な機能を綿密に監督している。彼らは手洗い設備の適切な使用を監督する責任があり、破損が発生した場合はメンテナンスを行う役割を担う。
- また、PTAは、四半期ごとに小額の寄付金 (積み立て金) を拠出し、施設に損害が生じた場合の維持管理に充てている。この寄付金には、蛇口やコネクターの修理や交換、液体石鹼製造のための原材料の購入も含まれる。また、PTAからの10米ドルの基金 / 寄付金を使って、給水タンクの蛇口を交換したことも報告された。



TAYEP Staff with handwashing facilities and beneficiaries

### 【変化】

- 手洗いに関連する病気の数は減少し、学童は安定的に登校し、学習成果 (学業成績) も向上した。現在、生徒たちは頻繁に石鹼で手を洗う。
- 地区医療担当官事務所 (DMO) のデータによると、プロジェクト実施校では、子どもたちの手洗いに関連する関連疾患が78%以上減少している。
- また、子どもたちが、衛生習慣の知識を学校から家族に伝え、変革のリーダーとしての自覚を持ち、地域社会に影響を与えようとしていることもわかった。



Project WASH Clubs with TAYEP Staffs.

### 【その他】

- TAYEPは、資金調達が依然としてプロジェクトの規模を拡大するための大きな課題であると主張し、JWF基金による将来の資金調達の機会に強い関心を示している。

# JWF ファンド 2022 フォローアップ結果

ムワンザのスラム街にある5つの村の学校に手洗い場を設置 (タンザニア)

現場からの声 (抜粋)



Salome Okidyさん、(12歳、受益者)

手が汚れた時、食事の前後、トイレの後など、いつもこの手洗い場を利用しています。学校にこのような手洗い設備があることで、私たちの健康が保たれ、学業にも役立っています。私は汚れたところ、食事の前後、トイレの後、どこでも水と石鹼で手を洗います。下痢や腹痛に悩まされることもなくなりました。病気もしなくなり、毎日学校に通うようになりましたし、学校の試験の成績も良くなりました。



Josephat Maguluさん、(45歳、PTA会員)

PTA会としての私たちの役割は、提供された手洗い場を持続的に使用できるようにすることです。私たちは、手洗い場の必要なメンテナンスや修理に役立てるため、少額の資金調達や貯蓄に努めています。また、通常、四半期に一度、保護者と会合を持ち、プロジェクトの進捗状況について話し合い、修理やサービス拡大の必要性について検討します。また、手洗い場の必要な維持・修繕に役立てるため、少額の資金調達・貯蓄に努めています。現在までに約50万ツァ(約200米ドル)の資金を集めることができました。これは液体石鹼と除菌剤を製造するための原材料の生産にも役立っています。



Chausiku Jumaさん、(43歳、村長)

私はプロジェクト地域の村長です。また、プロジェクトの進捗状況を監督する保護者会の委員も務めています。日本水フォーラムの支援による手洗い施設の設置以来、プロジェクト村では多くのことが変わりました。誰もが水に関連した病気にかかりたくないため、人々の手指衛生に対する意識が変わりつつあります。学校の子どもたちがコミュニティでのメッセージを強化し、多くの人々が頻繁に手を洗うようになりました。トイレ関連の病気も減りました。少なくとも今では、親や年長者はWASHに関連した病気のために病院で子供の世話を費やすよりも、生産的な仕事に十分な時間を費やすようになりました。治療のために使うお金を他の家族発展の使うことができるようになったわけです。これは、私が気づいたもっともポジティブな変化のひとつです。